



子どもの表情、大人の表情②

校長 加藤 高祥

6月に入りました。5月の終わりからすっきりしない天気が多くなり、そろそろ梅雨の気配を感じる季節になってきました。

朝、日を変えて通学路の3か所で子どもたちの登校の様子を見てみると、子どもたちの表情が日によって変わることが分かります。毎日ニコニコした表情で「おはようございます！」と元気にあいさつをする子がいたり、昨日は元気にあいさつをしていたはずなのに、次の日には、浮かない表情で私の前を通り過ぎていたりするなど子どもの表情は千差万別です。「何かあったのかな…」「朝、家で叱られたのかな…」「登校したら元気になるのかな…」などいろいろなことを考えています。

子どもはどこかで自分の思いを表情に出します。うれしかったこと、楽しかったこと、反対に悲しかったこと、困っていること、腹が立ったこと…。高学年になるにつれてその表情を表に出しづらくなり、大人もその表情から子どもの感情を読み取ることが難しくなってきますが、大切なことは、私たち大人がきちんと子どもの表情をとらえ、どんな思いでいるのかを推察することです。その推察によって子どもへのアプローチのしかたを変えていかなければならないと考えます。伝える内容が同じでも、話す内容や順番、タイミングや話し方などその時々で子どもの表情を読み取りながら、大人が伝えたいこと、伝えなければならないことを伝えていきたいものです。

私自身がそうでしたが、子どもの表情やアプローチのしかた関係なく、つつい大人の都合で自分の子どもに接していたことを今になって反省しています。学校でも子どもの表情に目を向け、その表情からアプローチのしかたを考えた指導を行っていききたいと思います。

登下校の安全について②

先日、登校の様子についてのリーダー会を行いました。この2ヶ月間、低学年の歩くペースに合わせることを大変さを共有しながら、さらに、地域の見守り隊の方の写真を見てその思いに触れながら安全に登校することの意味についてリーダーにお願いをしました。



歩幅の違う低学年とペースを合わせることは大変ですが、そこで登校班が離れ離れになって安全が担保されません。常にまとまって登校できるように、時には待ったり、後ろを気にしてもらえたりするとありがたいことを話しました。

次の日の登校から後ろをついてくる仲間のことを気にしたり、離れると待ってあげたりする姿が見られています。ご家庭でも登校の様子について聞いていただけると幸いです。また、それぞれの登校班の集合時刻に間に合うように送り出していただけるとありがたいです。

すべては子どもの安全が第一です。

明日から6年生が修学旅行に出かけます。2日間の登校についてよろしくお願いします。

環境整備作業ありがとうございました

5月31日(土)に学校運営協議会とPTA、地域のボランティアの方や児童で、校舎前の保健室からプールの側溝の砂出しを行っていただきました。ありがとうございました。